

# 科研費によるオープンアクセス論文 出版助成プログラムの提案

---

2015年3月3日（火）

国立情報学研究所

安達 淳

# 本助成プログラムの骨子

---

科学研究費補助金による研究成果論文をオープンアクセス（OA）雑誌に掲載した場合、その研究者の所属する大学等研究機関に、支払ったAPCの総額を間接費として助成する

機関は、機関内の科研費等の研究者のOA論文の出版状況を調査し、支払ったAPCの総額を確定し、データを整理してJSPSに申請する

■ APC : Article Processing Charge 論文処理費用

# 目的

---

- 科研費の成果としての学術論文を積極的にオープンアクセス(OA)により出版することを推進する
- 科研費の成果の論文を、網羅的かつ定量的に把握し、公開することに寄与する
- 学術研究の成果をOA化し、広く納税者に公開することを通じて、国民の理解や支援を得られるようにするとともに、研究活動の透明性を高める
- 学術論文の出版等における諸問題（学術雑誌の高騰等）に関して、定量的なデータを確保し解決策を作ることに寄与する

# 背景

---

- OAが研究助成機関の基本方針として重要になってきた
  - 海外においても助成機関による取り組みが行われている
    - ドイツ研究振興協会（DFG）APC助成プログラム
    - 英国研究会議（RCUK）APC助成プログラム
    - 62の助成団体、54の助成団体＋研究機関がOA方針を策定済(2014年第4四半期)
- ゴールドOAが広がり、APC支払いが増加している
  - 利益の上がる出版ビジネスとして拡大してきており、既に論文数の10%程度を占めるようになっている。
  - 一方、OA出版のAPCの増大を抑える仕組みがなく、総経費がふくれあがる懸念がある。
- 研究機関の研究成果にかかる総経費を把握したい

# 提案のポイント(1)

---

1. 研究者は、個人の研究成果（論文）の投稿・出版・APC支払い状況等を所属する大学等機関に報告する
2. 機関は、機関内のすべての研究成果の発表状況と発表コストを一元的に集約する
  - 機関内でのとりまとめ主体は大学図書館等を想定
  - コレスポンディングオーサの情報把握するなど作業が不可欠
3. 機関は、助成金による成果の発表状況とAPCの額をJSPSへ報告し、助成を申請する
4. JSPSは、申請に基づき、ゴールド OA誌に支払われたAPCの総額ないし一部を間接費として機関へ交付する
  - 対象等は、学術振興策に応じて設計可能
    - 総額ないし一部を交付する
    - ゴールドOAに加え、ハイブリッドジャーナルも対象とする
    - 期限付きプロジェクトとする（5年間限定など） 等々
  - 機関に付加的な作業を要請することも制度化可能
    - OAを含むすべての科研の成果論文を公開（グリーンOAを含む）する

# 提案のポイント(2)

---

## 5. 機関は、教育研究活動に活用すべく、自律的に補助金を運用する

- 原則として機関の自主運用（下記は方針例）
  - 100%研究者に戻す
  - 若手研究者に手厚くする
  - 日本の学会誌のみ、研究者に戻す（日本の学会振興を目的とする場合） 等々
- 成果発表状況を集計する作業等にこの補助金の一部をあてる

## 6. 国内の情報をとりまとめ、これを基礎データとして出版者と交渉する

- とりまとめは大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）を想定
- ハゲタカOAの検出と除外も可能となる（不適切な雑誌への投稿を抑止する）

---

### （用語）

- ハイブリッドジャーナル：APCが支払われた論文のみOAとするジャーナル。二重取り、double dippingの問題があり、これには否定的な意見が強くなっている
- ゴールドOA：OAジャーナル
- グリーンOA：機関リポジトリ等へのセルフアーカイブ
- ハゲタカOA：APC収入を目的に質の低いOAジャーナルを発行すること

# 試算

---

## ■ 全体試算

- 日本からの論文は8万論文/年程度 (Web of Science)
- 10%がゴールドOAと仮定する
- 平均APCを2,000ドル/論文と仮定する

$$8,000 \text{ (論文)} \times 2,000 \text{ (ドル)} = 1,600 \text{ 万ドル (約19億円)}$$

## ■ 千葉大学の例

- 全学の発表論文数1,000論文/年
- 10%がゴールドOAと仮定する
- 平均APCを2,000ドル/論文と仮定する

$$100 \text{ (論文)} \times 2,000 \text{ (ドル)} = 20 \text{ 万ドル (約2,400万円)}$$

# 効果

---

## ■ 学術コミュニティ全体

- OA推進を基本方針として掲げ、国内の学会へもOAを促すことができる
- 学術誌のOA化を間接的に助成し、雑誌の発信力強化につながる
- 研究者・大学へのOAの迅速な定着が期待できる
- OAの合理的展開のための基礎データを収集できる

## ■ 研究者

- APC負担の緩和(特に若手研究者)
- 機関からの支援が充実し、研究者が論文をオープンに公開する作業が軽減される

## ■ 大学・大学図書館

- APCの適正を保つ活動が可能
- 研究成果の捕捉が高まる（機関リポジトリ登録の促進）

## ■ JSPS

- 助成金の成果状況をより正確に把握
- 新たなOA推進策として世界へアピールできる

# 提案の背景

必要性

オープンアクセス(OA): 研究助成機関の基本方針として重要

研究助成成果の社会還元

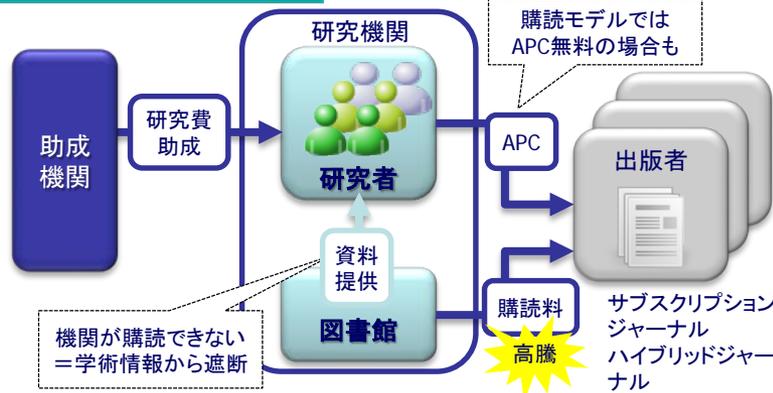
研究助成成果の共有による学術の進展

研究活動の透明性向上

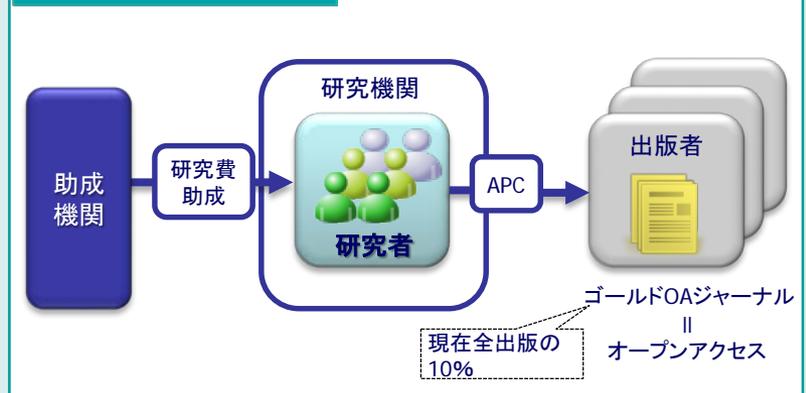
現状

代表的な研究成果(学術論文)流通モデル

サブスクリプション(購読)



ゴールドOA



課題

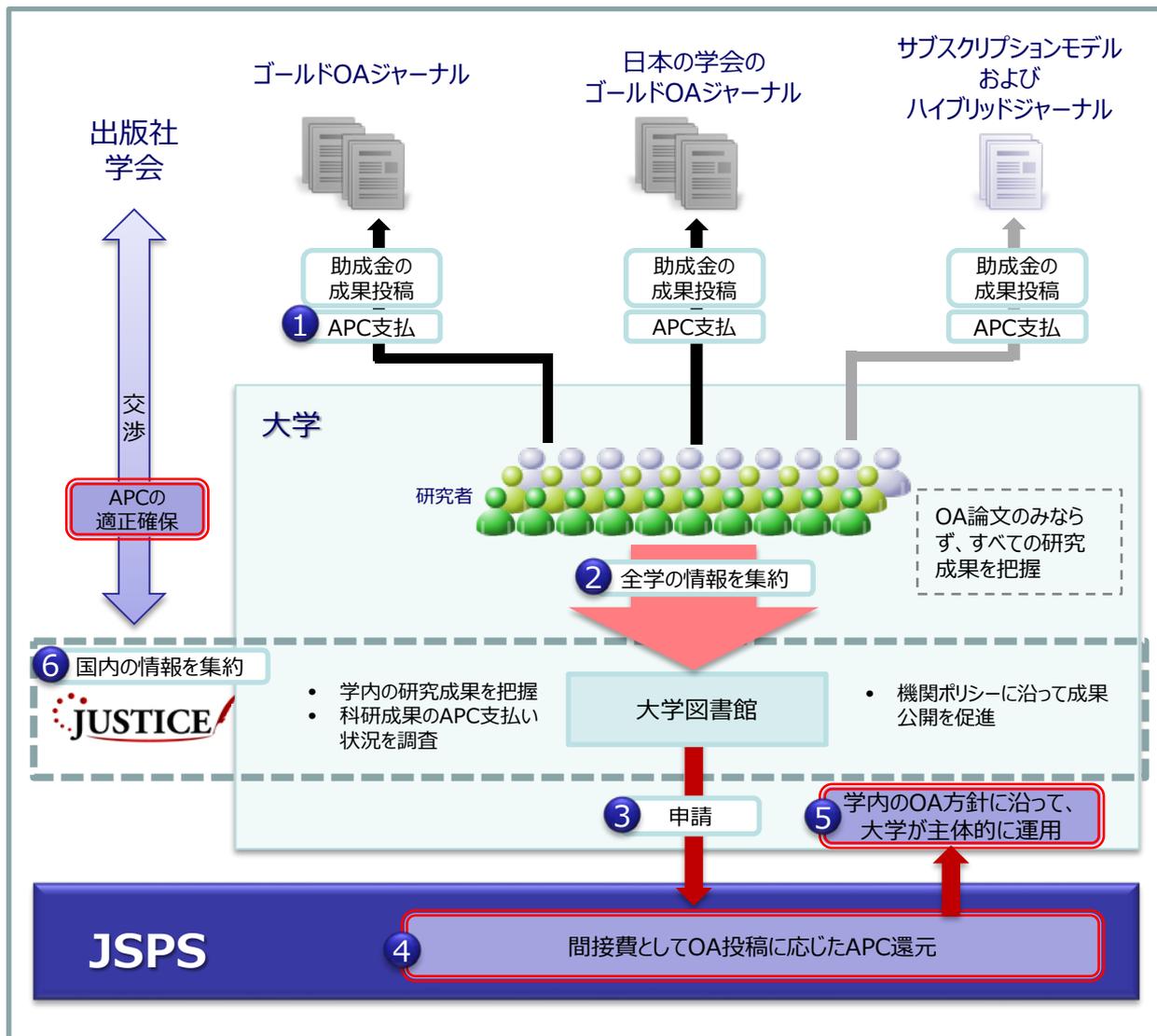
コストの増大

大学等研究機関は、APCと購読料の両方を負担

総コストの把握が困難

APCは研究者が個別に支払っているため、機関としてコストの全体像を把握できない

# 科研費によるオープンアクセス論文出版助成プログラム 提案概念図



- ### 学術コミュニティ全体のメリット
- ◆ わが国の基本方針としてOA推進を掲げ、国内の学会へもOAを促すことができる
  - ◆ わが国の学術誌のOA化を間接的に促進し、雑誌の発信力強化につながる
  - ◆ 研究者・大学へのOAの迅速な定着が期待できる
  - ◆ OAの合理的展開のための基礎データを収集できる

- ### 研究者のメリット
- ◆ APC負担の緩和(特に若手研究者)
  - ◆ 機関からの支援が充実し、研究者が論文をオープンに公開OAにする作業が軽減される

- ### 大学・大学図書館のメリット
- ◆ JUSTICEの交渉によりAPCの適正を保つ活動が可能
  - ◆ 図書館の集約活動により、研究成果の捕捉が高まる(機関リポジトリ登録)

- ### 助成機関のメリット
- ◆ 助成金の成果状況をより正確に把握
  - ◆ 新たなOA推進策として世界へアピールできる